

新潟県

Niigata Construction Technology Center

建設技術センターだより

2019
新春号
New Year



特集 02 市町村紹介コーナー

おぢや風船一揆

雪原まつりの一大スペクタクル。大きな熱気球が真っ白な雪野原をカラフルに染め上げ、大空への挑戦が繰り広げられます。本州唯一の雪上の熱気球大会を兼ねたイベントです!

小千谷市

CONTENTS

- 04 発注者支援事業紹介
- 05 NDJ会議の活動紹介
- 05 第1回にいがた「道」フォトコンテスト
- 06 ものづくり体験学習教室

センターINDEX

- 07 雪のことば・雪のころ

新潟の地酒巡り

- 08 新潟銘醸
- 08 編集後記





小千谷市

Ojiya



小千谷市のプロフィール(平成30年10月末現在)

面積/155.19km²

人口/35,846人

世帯数/12,780世帯

<http://www.city.ojiya.niigata.jp/>



～ひと・技・自然～ 暮らして実感 地域の宝が輝くまち おぢや



小千谷市は、日本一の大河・信濃川が市の南東部から北東部へと流れ、その信濃川が生み出した、全国でも類を見ない規模の河岸段丘が特徴です。冬には豪雪に見舞われる厳しさ、その雪解け水がもたらす美しい自然や田園のなかで、ユネスコ無形文化遺産である「小千谷縮」や国重要無形民俗文化財である「牛の角突き」、泳ぐ宝石と称される市の魚・県の鑑賞魚「錦鯉」など、小千谷特有の文化を育んできました。



pick up!

おぢや風船一揆

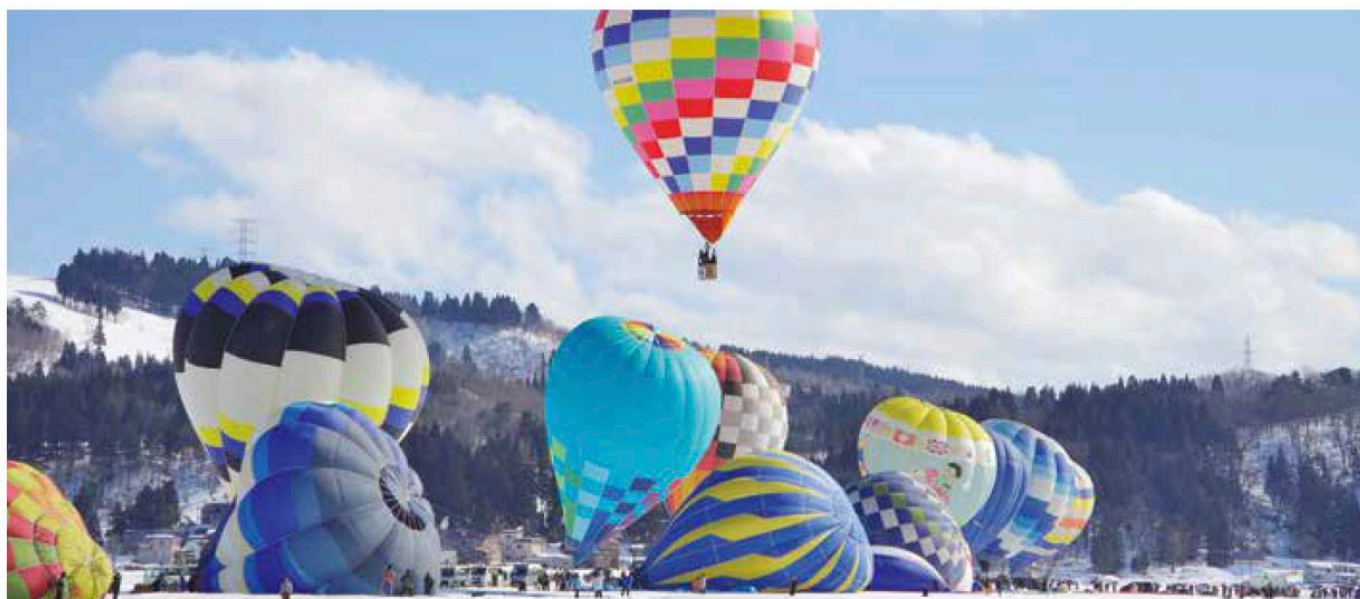
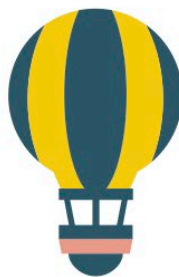
2月23日(土)～24日(日)

本州で唯一、雪上で行われる熱気球競技大会「日本海カップクロスカントリー選手権」と、各種スノーアクティビティが楽しめる「雪原イベント」が同時開催されます。

熱気球競技大会には、全国から集まる約40機のカラフルな熱気球が、真っ白な雪原から一斉に飛び立っていく光景を楽しみに、国内外からカメラマンをはじめ、大勢の方が訪れます。

雪原イベントでは、熱気球の試乗体験やスノーチューブ、スノートレインなどを体験できるほか、小千谷の伝統織物である「小千谷縮」の雪ざらしの実演も行われます。

また、初日の夜には、バーナーの炎で光る熱気球と花火のコラボレーション「グローバルーンフェスティバル」も行われます。真冬の澄んだ夜空に浮かび上がる幻想的な世界を、ぜひ一度ご覧ください。



TOPICS



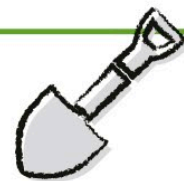
絵紙で彩る「小千谷のひいな祭り」

2月23日(土)～3月3日(日)

小千谷では古くから、雛祭りで雛飾りを飾った部屋に「絵紙」と呼ばれる浮世絵を飾る風習がありました。雪深いこの地では、冬の終わりや春の到来を告げる一大イベントとして親しまれ、子どもたちがお雛様の飾られた商家や近所の家を見て回りながら楽しんでいたそうです。「絵紙」とは浮世絵、特に多色刷りの木版画である「錦絵」を指す小千谷の言葉で、江戸時代に小千谷縮の交易で江戸に行った商人が、お土産として買って持ち帰ったのが始まりと言われています。

この風習は、全国的にも類を見ない誇るべき文化として今も親しまれ、今年も照専寺和順会館をメイン会場として「小千谷のひいな祭り」が開催されます。江戸や明治の頃の浮世絵の有り様を教えてくださいの小千谷の絵紙の世界を、ぜひお楽しみください。





新潟県立小千谷高等学校グラウンド復旧工事

工事概要

小千谷高等学校は、明治35年旧制長岡中学校小千谷分校として開校し、旧制小千谷中学校を経て新潟県立小千谷高等学校となり、現在に至っています。

当工事は、平成29年7月18日の豪雨により、小千谷高等学校に隣接する一級河川表沢川が氾濫しグラウンドの土砂が流出した小千谷高等学校グラウンドの災害復旧工事です。

工事内容



工 事 名 小千谷高等学校グラウンド復旧工事

工 期 平成30年1月～平成30年8月

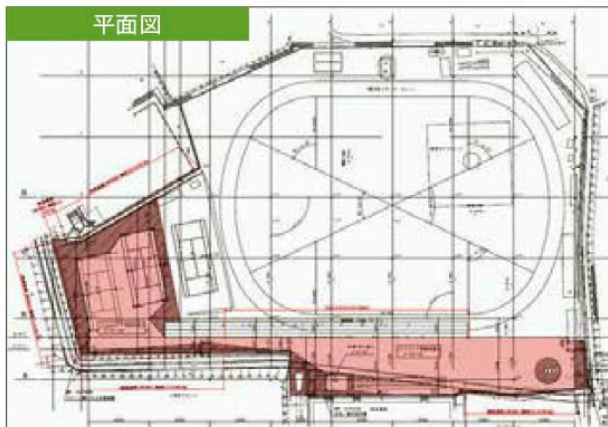
発 注 者 新潟県 教育庁

工事内容 グラウンド復旧 2,000㎡
テニスコート復旧 1,450㎡

施工位置図



平面図



立会状況



竣工(グラウンド)



竣工(テニスコート)



管理技術者から 一言

管理技術者 服部 隼



当工事は供用している小千谷高等学校グラウンドの一部を復旧する工事でした。授業や部活動により施工範囲外のグラウンドを使用するため、安全管理に留意し業務に当たりました。

また、工事期間中に体育祭などの学校行事が予定されていたため、教育庁、学校、施工業者と打合せを密に行い、学校行事に支障をきたさないよう、施工管理を滞りなく遂行し、無事竣工を迎えることができました。今後も、災害対応を含めた公共工事の品質確保や、社会資本整備に貢献していきたいと思っております。

にいがた土木女子 (NDJ)会議の活動紹介

NDJ会議とは

「にいがた土木女子会議」は土木建設業の魅力を広くアピールするため、また、女性も活躍できる職業であることを知ってもらうため、そして、新潟県内の建設業界で活躍する女性同士の連携を図るために発足しました。

新潟県の女性土木技術者と(一社)新潟県建設業協会女性部、(一財)新潟県建設技術センター女性技術職員が連携して発足しましたが、新潟県内の土木建設関連業務で働くみんながメンバーであると考えています。

様々な活動をとおして、メンバー同士の交流を深めていきたいと考えています。

NDJ会議のメンバーとして土木の魅力を発信します!



活動内容

・交流を深める

研修会や意見交換会を開催し、女性同士の交流を深めます。

・土木の魅力をPR

次代を担う、中学生、高校生へ土木建設業の魅力を伝えるため、学校への出張PRを行っています。

・働きやすい職場環境を検討

土木建設業が女性にとっても男性にとってもさらに、働きやすい環境になるよう、検討を進めます。

情報交換の場を提供



土木の魅力をPR

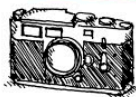


参加して

昨年度の発足からNDJ会議に参加をして、官民飛び越えていろいろな方と交流をさせていただきました。土木技術者として、女性として、社会人として、たくさんのお話をする中で、土木の仕事はカッコ良くてやりがいのある仕事であり、女性が活躍できる場であることを改めて感じました。女性が集まったときのパワーはすごいです。このパワーを建設業界の魅力発信に繋げていけるようがんばります!

第1回にいがた「道」 フォトコンテスト入賞作品決定!

詳しくは、新潟県HPをチェック!



“にいがた「道」フォトコンテスト”の審査会が昨年11月15日(木)新潟県自治会館において実施されました。多数の応募の中から一般部門、学生部門で入賞作品が選ばれ、現在は新潟県HPでもご覧いただけますし、県内各地で展示されます。興味のある方は是非ご覧いただき、道への愛着を再認識してみたいかがでしょうか?



ものづくり体験学習教室

新潟県建設技術センターでは公益事業の一環として「ものづくり体験学習教室」に取り組んでいます。これは、地域社会の振興発展のため、未来の技術者に以下の3項目を目指した普及教育活動として実施しているものです。

その1

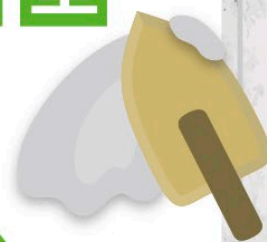
コンクリートを身近に感じ、社会基盤整備への理解と関心を深めてもらう。

その2

コンクリートに関する科学的な事象の体験を通じ、理化学分野に興味を持ってもらう。

その3

ものづくりの体験を、将来、技術者への進路につなげてもらう。



今回は、平成29年度に実施した「南魚沼市立 後山小学校」の開催内容をご紹介します。

開催概要

日時：平成29年9月1日（金）2時間目～3時間目（計90分間）
場所：南魚沼市立 後山小学校
対象：1～6年生 児童（11名）・保護者・教職員の皆さん

開催内容（3本立て）

1. クイズでわかる!コンクリートのふしぎ

クイズ6問を通じて、コンクリートの特徴を学びました。また、皆さんの暮らしの中でも、コンクリートがとても役に立っていることを知ってもらいました。



クイズ形式で
コンクリートの
特徴を学びます。

2. ペーパーウエイトを作ってみよう!

セメントと水を練り混ぜ、動物や魚の型に流し込み、コンクリート製のペーパーウエイトを作ります。最後に絵の具で着色して仕上げました。



ペーパーウエイト
作りです。
型から外した状況です。
みんな真剣です。

3. コンクリートで作った石橋（アーチ橋）を渡ってみよう!

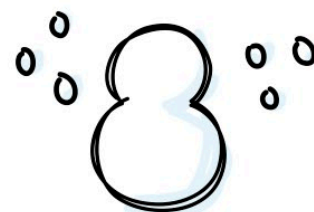
コンクリート製のブロックを、自分たちで考えながら組み合わせて、アーチ橋を作ります。完成したら歩いて渡ってみますが、接着剤などを使っていないのに崩れないのは不思議です。



コンクリートが
とても丈夫なことが
わかります。



雪のことは・雪のころ



昨冬の雪の降り方と雪氷災害(その3)

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上石 勲

1. 福井県内の大雪

平成30年(2018年)の1月~2月、福井県などの北陸地方や新潟県、山形県や秋田県などの東北地方、北海道など各地で大雪となりました。

福井県内では、1月10日と2月8日前後に2回の大雪があり、どちらも大きな被害が出ました。気象庁のアメダスの福井観測点(福井市内)では、積雪深が140cmを超え、昭和56年(1981年)以来36年ぶりの大雪となりました。また、山間部の九頭竜(くずりゅう)観測点(福井県大野市九頭竜)では3mを超える積雪となりました。

福井県あわら市、坂井市では、2月6日から8日にかけての大雪で約1500台の車が立往生し、交通や物流に大きな影響をもたらしました。図1は、立往生が解消した後のあわら市内の国道8号線の状況です。両側が斜面となっていたり、家屋が連担していたりと、道路脇に除雪した雪を貯めておくスペースを確保できず、機械除雪しにくい道路の構造となっています。立ち往生が長期化した要因の一つは、このような道路の構造かも知れません。さらに福井市では、雪に埋まった車の中から、一酸化炭素中毒のため死亡していた運転者が発見されました。



図1 大雪で車が立ち往生した国道8号線(2/16福井県あわら市内)

福井市では2月16日の段階でも雪が道路脇にうず高く積まれ、自動車や歩行者の安全な通行が危ぶまれる状況が見られました。

気象庁のアメダス観測点の記録では、2月5日と6日に、1日の降雪量が50cmを超え、2日間で積雪が1m以上も増える集中的な降雪となっていました。この集中豪雪が、車の立往生、農業用のビニールハ

ウスや建物などの倒壊につながった直接的な原因です(図2)。

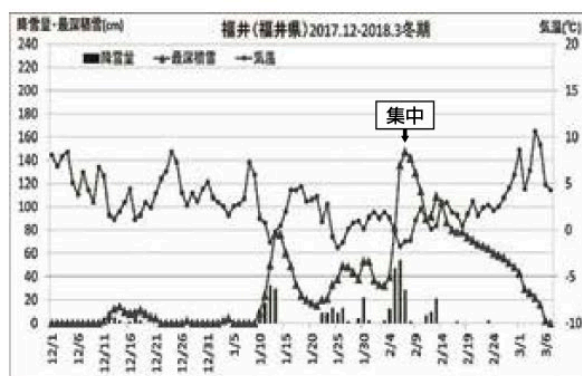


図2 福井県のアメダス観測点の記録(気象庁資料により作図)

福井県の山間部でも大雪となり、大規模な雪崩も発生しました。雪崩は2月7日と3月9日の2回発生し、道路を一部埋めています。流下総距離は2回とも2kmと大規模でした(図3)。

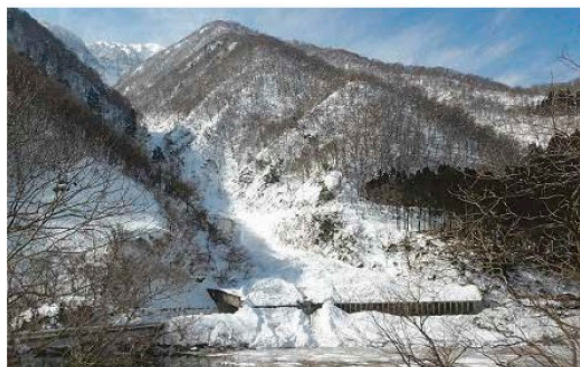


図3 国道158号線の一部を埋めた雪崩(2/7福井県大野市内で発生)

2. 雪国から発信

国土交通省では、このような道路の大雪による大規模な渋滞を防ぐために、今後チェーン規制を強化するとし、プレスリリースを行いました。これまでの渋滞の状況を見てみるとチェーンをはめても通れないような大雪が原因だったり、非雪国の大型車がすべり止めをはめなかったことが原因となっています。スタッドレスタイヤの普通車ではチェーンをはめたことの無いことなど、雪国の実情をもっと知っていただかないといけないと思います。皆さんからも発信してください。

特集

vol.8

新潟の地酒巡り

全国的にも評価が高い新潟の清酒。
そのおいしさの秘密を紹介します。

小千谷市の酒蔵

新潟銘醸

雪も彩る小千谷で、
上品な香りと味わいの酒を。

越後雪国の生活を綴った鈴木牧之(ぼくし)の北越雪譜に「雪ありて縮あり」と記され、国の重要無形文化財に指定され、ユネスコの無形文化遺産に登録された小千谷縮。縮と同じく雪の中で心を籠(こ)めて造る当社の製品は、新潟清酒の中でも特にきめの細かいコクとすっきりとした後味が特徴です。

代表取締役社長 吉澤 貞雄



- 1.「長者盛 美禄 大吟醸」山田錦を35%まで丁寧に磨き、酒造りに最適な厳冬期に長期低温醗酵。繊細かつ華やかな味わいの逸品です。
- 2.「長者盛 本醸造 辛口」原料米は新潟県産米100%、適度なコクと後味のキレ、肴を選ばない定番酒です。
- 3.「福寿長者盛 黒ラベル」新潟県の酒米「越淡麗」で造った、優雅な香りと爽やかな味わいの純米吟醸酒です。



新潟銘醸株式会社
〒947-0004
新潟県小千谷市東栄1丁目8番39号
TEL.0258-83-2025
URL: <http://www.niigata-meijo.com/>

新潟銘醸の歴史は、そう古くなく創業は昭和13年ですが、蔵元である吉澤家は長岡市摂田屋で明治時代より薬酒「機那(きな)サフラン酒」を製造販売しており、また大正時代吉澤邸に建設された十二支などが極彩色の鍍絵(こてえ)で描かれた蔵は現在国の登録有形文化財に指定されています。

創業者の吉澤勇次郎は昭和2年に当時では革新的な珙瑯(ほうろう)タンクの製造会社の設立に参加しましたが、木桶オンリーだった酒造業界になかなか受け入れられず、そうした経緯もあり自ら酒造業に乗り出し昭和13年に新潟県中蒲原郡で新潟銘醸を創業、2年後には小千谷市に移転し、本格的に酒造りをはじめました。「長者盛」の銘柄には長者のように秀でた酒を造りたいという創業者の思いが込められています。小千谷は錦鯉発祥の地として魚沼コシヒカリの産地としてまたへぎ蕎麦で知られています。そのような地域の環境の中で「食とともにある日本酒」を目指してきました。

いい米を丁寧に精米し、低温でゆっくりと醗酵させ、軟水で仕込む。これが新潟の多くの蔵で行われている仕込みですが、ここに個性を加えてゆく、淡麗辛口の味わいの中に米の旨味をしっかりと感じられる酒。

小千谷は山間地。創業当時から「長者盛」は、この土地の風土があるからこそ生まれる独特のうまさを追求し、時代とともに革新を重ねて、進化させ続けて行きます。

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今年の干支、亥年には「無病息災」の由来があると言われていています。皆様にとってこの一年が健やかで実り多い年となりますよう祈念いたします。

今回のセンターだよりはいかがでしたか？ この新春号では、小千谷市様からのご寄稿や新潟銘醸様からの新潟の地酒巡りなどをご紹介させていただきました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

今後も地方公共団体の補完・支援機関として安全・安心な地域づくりのため、職員一丸となり取り組んでまいります。これからも温かいご支援、ご指導をいただければ幸いです。

編集委員 情報管理部 谷 佳裕子